

ライフル射撃について

About rifle shooting

ライフル射撃とは

ライフル射撃競技とは、身体的・心理的・技術的に「より高い自分」を追求することができるスポーツの一つです。1551年、ドイツのライプチヒで行われた競技会から始まったとされ、1896年第1回アテネ大会からオリンピックの正式種目として採用されています。世界的にも広く行われており、現在、国際射撃スポーツ連盟には149の国と地域が加盟しています。

日本では1924年(大正13年)に第1回関東大学専門学校射撃大会が開かれ、オリンピックには1951年(昭和26年)ヘルシンキ大会から参加。これまでに金メダル「1」(1984年ロサンゼルス大会・蒲池猛夫／ラピッドファイアピストル)、銀メダル「1」(1988年ソウル大会・長谷川智子／スポーツピストル)、銅メダル「3」(1960年ローマ大会・1964年東京大会・吉川貴久／フリーピストル、1992年バルセロナ大会・木場良平／スモールボアライフル3姿勢)を獲得しています。

またパラリンピック大会には、2000年シドニー大会から参加しています。

日本の射撃競技を取り巻く環境

射撃競技にはライフル種目とピストル種目の二つの種目がありますが、「銃砲刀剣類所持等取締法(銃刀法)」の厳しい日本では、競技で使用するエアライフル・スモールボアライフル・ビッグボアライフル・ピストル及びピストルを所持するためには、公安委員会による所持許可が必要となります。これを得るためには、警察による厳格な審査を通らなければなりません。特にピストルには厳しい人数制限があり、エアピストルは全国で500名、ピストルは全国で50名しか所持許可が下りないという、狭き門になっています。

所持許可が必要なく、誰でも気軽に楽しめる銃もあります。日本発祥の光線銃『ビームライフル』と『ビームピストル』です。オリンピック種目ではありませんが、国民スポーツ大会の正式種目(少年男子・少年女子)となっています。

また、老若男女一緒にプレーできるという射撃競技の特性を活かし、2023年から性別、障がいの有無といった従来の枠を外した『共生大会』も行われています。



ライフル射撃競技の実際

Rifle and Pistol Shooting Sport at a Glance

ライフル種目

使用する銃器と射撃距離によって300mライフル、50mライフル、10mエアライフル・ビームライフル、さらに射撃姿勢と弾数、男女別で分かれています。

ライフル射撃姿勢



膝射=ニーリング(K)



立射=スタンディング(S)



伏射=プローン(P)

本大会では50mライフル種目として(略称SB)5種目、10mエアライフル(略称AR)7種目、ビームライフル(略称BR)3種目の計15種目があります。

試合はまず制限時間内で決められた弾数を撃つ『本選』が行われて、上位8名が『ファイナル』に進みます。『ファイナル』では射場長の号令で射撃が行われ、各選手の各選手の得点状況や順位がその都度アナウンスされます。『ファイナル』後半はその時点で最下位の選手から敗退していくという方式がとられ、下位から順位が確定していくこととなります。同点の場合は同点者だけで「競射」が行われ、順位を決めることとなります。

*SB立射40発、SB女子伏射60発、AR立射30発、及びCFP30発では『ファイナル』は行われません。

50mライフル種目(成年男女)

男子3姿勢(FR3P)・
男子立射40発(FR40)・
男子伏射60発(FR60PR)・
女子3姿勢(R3P)・
女子伏射60発(R60PR)

22口径(5.6mm)の装薬銃で距離は50m、標的の10点圏の大きさは直径10.4mmの円形で、標的には一発ずつ撃ち込みます。なお、3姿勢競技の「本選」は1時間30分、伏射60発競技は50分、立射40発競技は50分の制限時間内に各自で時間配分を考えて競技を行います。

なお、「男子3姿勢」「女子3姿勢」の2種目はオリンピック正式種目となっています。

10mエアライフル種目(成年男女・少年男女)

成年種目／男子立射60発(AR60)・
女子立射60発(AR60W)・
エアライフルミックス(ARMix)
少年種目／男子立射60発(AR60J)・
男子立射30発(AR30J)・
女子立射60発(AR60WJ)・
女子立射30発(AR30WJ)

空気銃を使用する種目です。口径(4.5mm)の銃でシャープペンシルの芯の太さと同じ直径0.5mmという標的を狙います。「立射」は成年・少年ともに制限時間は60発で1時間15分、30発で30分です。また、男女でペアを組みチームで行うミックス種目もあります。立射60発とミックスはオリンピック正式種目でもあります。

ビームライフル種目(少年男女)

少年男子立射60発(BR60J)・
少年女子立射60発(BR60WJ)・
少年ミックス(BRMixJ)

誰でも安全にスポーツとして精度の高い射撃ができるように開発された光線銃「ビームライフル」を使用した、日本独自の種目です。標的10点圏の大きさは直径1mm、制限時間が短いこと以外、エアライフルのルールに準じています。現在の日本代表選手のほとんどがこのビームライフル種目からスタートしている、銃刀法の厳しい日本において、射撃の普及・育成に欠かせない種目です。

SPORTS
A GLANCE

ピストル種目

ライフル種目同様、射撃距離によって25mピストル、10mピストルに分けられています。射撃姿勢は片手で銃を保持し、立って撃つ「立射」のみとなります。試合の方式はライフルと同様で、『本選』から上位8名が『ファイナル』に進出します。なお、センター・ファイア・ピストルのみ、本選得点+ファイナル得点の総合計で順位が確定します。



ピストル射撃姿勢

25mピストル種目(成年男子)

センター・ファイア・ピストル60発(CFP60)・
センター・ファイア・ピストル30発(CFP30)

本大会で実施される25mピストル種目は、センター・ファイア・ピストル(略称CFP)となります。銃の口径7.62mm~9.65mm(32~38口径)の「装薬拳銃」を使用します。標的の10点圏の大きさは、5分間の5発撃ちを6回繰り返す「精密射撃」で直径5cm、7秒ごとに3秒間現れる標的を1発ずつ撃つ「速射」で直径10cmです。この2通りの射撃を30発ずつ行ってその合計点で競うのが「CFP60」、精密射撃のみで争われるのが「CFP30」です。



ビーム・ピストル種目(少年男女)

男子60発(BP60J)・
女子60発(BP60WJ)

弾の代わりにレーザーが発射されることを除けば、エアピストルと同じルールが適応されています。ビーム・ライフル同様、誰でも安心してできるので、ピストル競技者の普及・育成に大きく寄与することが期待されている種目です。

10mエアピストル種目(成年男女)

男子60発(AP60)・
女子60発(AP60W)

口径4.5mmの圧縮空気を利用したエアピストルを使用する競技で、オリンピックの正式種目にもなっています。距離は10m、標的の10点圏は直径11.5mm。男女ともに60発を制限時間1時間15分以内で行われます。

